

# 国際文化専攻

## 異文化との交流によって成立する「国際文化」を探究

グローバル化・情報化が進展する世界を、既存の主権国家の枠組みだけではなく、異文化間の理解と交流によって成立する「国際文化」として捉え研究することが本専攻の目的です。そのため、本専攻では主に3つの研究領域に科目を配置しています。第一に「国際社会に存在する多様な地域文化間の相関関係」を扱う「異文化相関関係研究」、第二に「多文化・多民族社会での共生」を扱う「多文化共生研究」、第三に「様々なメディアが介在する情報化社会における文化交流・認識」を扱う「多文化情報空間研究」です。

様々な文化が共有する問題と構造に関する重層的な研究や文化を中心に政治・経済も加えた広い視野による国際社会の考察、どのような文化にも存在する「内なる他者」「内なる異文化」の解明、国際文化における日本文化の相対化、更には情報空間に成立する文化に対する国際文化学としての理解などに取り組んでいます。

異なる文化がせめぎ合い、かつ多様な文化情報がインターネット等を通して行き交う国際社会において、そこから生じる諸問題を主体的、自立的かつ創造的に研究し、問題解決につなげられる柔軟な知性としての「実践知」を備えた人材を育成します。

<p><b>アドミッション・ポリシー</b> (学生受け入れ方針)</p> <p>一般入試、学内入試、社会入試、外国人入試を通して、研究に必要な外国語(非母語)能力、研究の基盤となる学問分野の基本文献の理解、文献への論理的で批判的な思考力、主体的に研究・実践する意欲、自文化に枠にとられず通文化的かつ複眼的な視点を備えている者を受け入れる。博士後期課程では、これらに加え、研究基盤となる知識と方法論、先行研究の体系的理解、一次資料を発掘する一定程度の能力を有している者を受け入れる。</p>	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b> (教育課程の編成・実施方針)</p> <p>修士課程では「国際文化研究」「国際文化共同研究」を必ず履修し、国際文化学の学際性・専門性・方法論を身につける。3つの研究領域の科目を横断的に受講することを促すとともに、毎年1度以上の研究発表を課して異なる研究領域の教員が指導する。異文化間の理解や交流に関わる実務的な課題に取り組む科目によって「実践知」を身につける。博士後期課程では2017年度導入のコースワークを通して研究者としてだけでなく教育者としての研鑽を積む。外国人学生は日本語論文指導を受けることができる。</p>	<p><b>ディプロマ・ポリシー</b> (学位授与の方針)</p> <p>修士課程修了時には、3つの研究領域の基盤的な知識と方法論を十分備え、異文化間で生じる課題に対して、先行研究・事例を批判的に評価する一方で、現実の問題発見や実務的な問題解決に結びつけられるようになる。質的・量的調査を通して一次資料を発掘し、独創的な視点を見出すことができ、研究結果を口頭表現や文章表現、あるいはICT等を活用して論理的に伝えることができるようになる。そして博士後期課程修了時には、研究成果を単著として発表できる独立した研究者、また実践知を尊重する後進を育成できる教育者となる。</p>
---	---	---

### 専任教員と主な担当科目 (2017年度) ※年度により授業を持たない場合があります。

<p><b>浅川 希洋志 教授</b></p> <p>専攻: 心理学、人間発達学 研究テーマ: フロー経験(flow experience)と精神的健康・Well-beingとの関連について 担当科目: 国際文化共同研究B、異文化社会学ⅡA・B</p>	<p><b>今泉 裕美子 教授</b></p> <p>専攻: 国際関係学、太平洋島嶼国際関係史、ミクロネシア研究、沖縄研究 研究テーマ: アジアや太平洋島嶼を中心に世界諸地域の植民地政策、そこでの人々の暮らし、社会、経済、移動、散居民地を分析し、現代世界の諸問題との関係性を追究する 担当科目: 異文化社会学ⅠA・B</p>
<p><b>大中 一彌 教授</b></p> <p>専攻: 政治学、政治思想史(近現代のフランスを中心に) 研究テーマ: ヨーロッパ連合地域の政治・経済・文化を公共空間とグローバル化の関係を軸に検討する 担当科目: 国際文化研究A</p>	<p><b>甲 洋介 教授</b></p> <p>専攻: ヒューマンインターフェース 研究テーマ: 道具の使いやすさ(usability)を実現するための設計方法論、日常生活を豊かにする情報空間と人工物のデザイン 担当科目: ※今年度は、特定の科目を担当しません</p>
<p><b>輿石 哲哉 教授</b></p> <p>専攻: 英語学、言語学 研究テーマ: 英語の形態論、英語史、辞書学、対照言語学、英語の語を中心とした領域が他の領域にどのように関わるか、さまざまな角度から検討する 担当科目: 多言語相関論ⅢA・B</p>	<p><b>重定 如彦 教授</b></p> <p>専攻: 情報科学 研究テーマ: ユビキタスコンピューティング、分散OS 担当科目: 多文化情報メディア論Ⅱ</p>
<p><b>高柳 俊男 教授</b></p> <p>専攻: 朝鮮近現代史 研究テーマ: 在日朝鮮人(広義)の歴史や文化を多面的に描き出し、新しい時代に合わせた等身大の在日像と、日本社会のあるべき姿を考察すること 担当科目: 多民族共生論ⅡA・B</p>	<p><b>中島 成久 教授</b></p> <p>専攻: 文化人類学、ポスト・コロニアルリズム研究 研究テーマ: 文化の理論、ナショナリズム、エスニシティに関する理論、コロンニアル・スタディ、開発と文化、インドネシア(東南アジア)研究 担当科目: ナショナリズム/エスニシティ論A・B</p>
<p><b>森村 修 教授</b></p> <p>専攻: 現代哲学、現代アートの哲学、応用倫理学、近代日本哲学 研究テーマ: 現象学研究「こころ・魂・身体」の哲学研究。「死者」と「亡霊」を含む「他者」概念に基づく、現象学的他者論の構築 担当科目: 国際文化共同研究A、多文化情報空間論ⅠA・B</p>	<p><b>リービ 英雄 教授</b></p> <p>専攻: 日本文学 研究テーマ: 戦後から現代までの文学の名作を読んで、時代の最先端のテーマを幅広くバイリンガルに読解する 担当科目: 多言語相関論ⅡA・B</p>
<p><b>和泉 順子 准教授</b></p> <p>専攻: インターネット上の情報流通に関する研究 研究テーマ: 主にITISや移動体通信などが扱う実空間情報を軸にしたインターネット上の情報流通と、情報技術の普及や社会性に関する問題に取り組む 担当科目: 多文化情報ネットワーク論A・B</p>	<p><b>佐々木 一恵 准教授</b></p> <p>専攻: 歴史学、ジェンダー研究、異文化接触論、帝国主義研究 研究テーマ: 20世紀初頭のアメリカにおける帝国主義と歴史意識とジェンダーの関係 担当科目: ※今年度は、特定の科目を担当しません</p>
<p><b>廣松 勲 専任講師</b></p> <p>専攻: フランス語圏文学、文学理論 研究テーマ: カリブ海文学およびハイチ系ケベック文学に関する、ポスト・コロニアルリズム論およびメラノカラー論に基づいた地域研究 担当科目: 多文化芸術論Ⅰ</p>	

Graduate School of Intercultural Communication  
Major in Intercultural Communication

募集人員: 修士課程15名/博士後期課程3名  
開講形態: 昼夜開講  
キャンパス: 市ケ谷  
長期履修制度: 有(修士課程)  
主な進路: 研究職、教員、公務員、旅行業界、出版印刷業界、広告業界、青年海外協力隊など

### 研究室紹介

大中 一彌 教授



#### 「アイデンティティの不安」の時代に

#### 他者の文化を理解すれば、紛争はなくなるのか?

私の専攻は政治思想という分野で、フランスを中心とした近現代を研究対象にしている。これまで関心を持って取り組んできた分野としては、(1)アルチュセールを始めとする、構造主義とマルクス主義の交錯する地点にいた一連の哲学者・社会理論家に関する研究、(2)ノワリエルを始めとする、フランスにおける移民史・移民社会論の研究、がある。価値観や宗教、イデオロギーの対立により紛争が起きているといわれるが、それならば経済的な背景はあまり重要ではないのか? 対立を内部に含み込みながらも異なる価値観の人びとが共存可能な政治社会は、どのような過程を経て可能になるのか? こうした問いに取り組むために共に学ぶ人を求めています。

### STUDENT'S VOICE



修士課程 2016年度修了  
桑原 恭平

#### 研究テーマであるボランティアの知識と得意の料理で国際協力

##### 大学院の魅力

大学院に入って良かったことは、研究を行ったからこそできた人との繋がりで。私はボランティアについて研究し、実際にボランティア活動に参加しました。そのときできた関係によって論文が自分一人のものではなく、研究に協力してくれた人たちにこたえるためにも、最後まで論文に向き合い執筆することができました。

##### 将来の目標

今後の目標は、料理で国際協力を行うことです。そのため、修了後は調理師専門学校に通い、調理師免許を取得するつもりです。これまで法政大学国際文化学部や大学院で国際協力について学んできたことを生かし、料理人として腕を磨き、いずれは途上国などで料理を作り、そこから料理で行える国際協力を模索していきたいと思っています。

研究テーマ	ボランティア活動によって構築される関係 ー陸前高田市での参与観察からー
-------	-------------------------------------

### 設置科目 (2017年度) ※開講科目は年度により異なります。( )内は単位数

[修士課程]	国際開発論(2)	[博士後期課程]
国際文化研究A/B(各2)	国際協力論(2)	博士論文演習ⅠA・B/ⅡA・B/ⅢA・B(各2)
国際文化共同研究A/B(各2)	国際人権論(2)	博士ワークショップⅠA・B/ⅡA・B/ⅢA・B(各1)
多言語相関論ⅠA・B/ⅡA・B/ⅢA・B(各2)	多文化情報ネットワーク論A/B(各2)	国際文化研究日本語論文演習A/B(各2)
多文化相関論ⅠA・B/ⅡA・B/Ⅲ(各2)	国際文化研究日本語論文演習A/B(各2)	修士論文演習A/B(各2)
多文化芸術論Ⅰ/Ⅱ(各2)		
異文化社会学ⅠA・B/ⅡA・B(各2)		
ナショナリズム/エスニシティ論A/B(各2)		
マイノリティ社会学A/B(各2)		
ジェンダー論(2)		
多言語社会学A/B(各2)		
多民族共生論ⅠA・B/ⅡA・B(各2)		
トランスナショナリズム論(2)		
国際ジャーナリズム論(2)		
国際文化交流論Ⅰ/ⅡA・B(各2)		
比較宗教文明論(2)		
多文化情報空間論ⅠA・B/ⅡA・B(各2)		
多文化情報メディア論ⅠA・B/Ⅱ(各2)		
Thesis WritingA/B(各2)		
Oral Presentation(2)		